

# 県大生グループ「おおとよ探検隊」 立川地区に寄り添い4年 卒業生に住民が手作り式

おおとよ探検隊メンバーの卒業を祝って立川地区の住民が行った手作りの卒業式（大豊町立川上宅）



【福北】高知県立大学の学生団体「おおとよ探検隊」が、過疎高齢化が進む大豊町立川地区の活性化や魅力発信に取り組んでいる。2022年に結成され、住民とイベントを運営。地域に溶け込み、郷土料理の販売などにも力を入れる。住民はメンバーの大学卒業を祝って手作りの卒業式を初めて行うなど、温かい交流が生まれている。

探検隊は同大学が学生の企画を金銭面で支援（上限30万円）するプロジェクト「立志社中」の探検チームの一つ。発足メンバーは4年前に当時1年生だった代表の麻岡里光さん（22）や副代表の久保彩音さん（22）ら4人で、久保さんの出身が大豊町だったことなどから同地区を活動地域とした。団体名には「暮らす人が日常だとするものを、新しい視点で見つめよう」との

思いを込めた。現在のメンバーは30人を超え、月に2回ほど立川を訪れて住民と活性化に取り組む。

活動拠点の一つは、土佐藩主が参勤交代の休憩所とした同地区の国の重要文化財「旧立川番所書院」。音楽の演奏を楽しむイベントを運営し、住民が栽培しているソバや紅茶を使ったクッキー、ゴボウやエゴマを混ぜた郷土料理「ごんちゃん」を販売。ごんちゃんは学内の

文化祭にも並べ、立川をPRする。このほか、南海トラフ地震の被災後を見据えた非常食作りなども行ってきた。

こうした取り組みが評価され、今年3月には農業や食文化を通じて地域を豊かにする活動を表彰する「学生地域づくり・交流大賞」（全国農協観光協会主催）の優秀賞を受賞した。

創設メンバーが今春卒業するため、住民はこれまで

の感謝を伝えようと手作りの卒業式を1月末に行った。感謝状やシカの角で作ったキーホルダーのほか、地区長の一人、吉川定雄さん（76）が自作した歌も贈った。地区人口は70人ほどで高齢化率は約85%。吉川さんは「孫のような若い子たちが地域のために頑張りたいと来てくれるのがうれしかった」と目を細める。

4月から県内の会社で働く麻岡さんは「地域と関わった4年間と卒業式は宝物。これからも立川の人たちと関わりを持ち続けたい」。中学教諭となる久保さんは「地域学習の時間には、立川での経験を生かして生徒の力になりたい」と話している。（川嶋幹鷹）